# 【令和5年度地価公示結果について】

全国の土地の価格を示す今年の「地価公示」の結果が3月22日に公表され、香川県内の全用途平均価格は1平方メートルあたり57,900円で、昨年に比べて上昇しました。

新型コロナの行動制限の緩和等が影響しており、高松市の商業地では、価格の平均変動率が3年ぶりに上昇に転じました。

「地価公示」は、地価公示法によって、国土交通省が実施するもので、区域ごとに標準的な地点を選定し、鑑定評価員（不動産鑑定士等）の鑑定評価をもとに、毎年1月1日時点の標準地の正常な価格を判定し公示する制度です。香川県内では直島町を除く8市8町の179地点が対象となりました。

県内の1平方メートルあたりの土地の平均価格は57,900円で、昨年を約0.9%上回りました。

また、昨年に対して価格がどの程度変動したかを示す「平均変動率」は、住宅地では、昨年から0.2ポイント改善してマイナス0.5%、商業地でも0.3ポイント改善してマイナス0.5%となり、下落率は縮小しました。

特に、高松市の商業地では、「平均変動率」が昨年より0.6ポイント改善して0.2%と、県内で唯一上昇となりました。上昇は、令和2年以来、3年ぶりのことです。

一方、県内で最も地価が高かったのは、住宅地では10年連続で「高松市番町3丁目14番8」で、昨年より3.8%上昇して、1平方メートルあたり270,100円、商業地では18年連続で「高松市磨屋町2番6外」の商業ビルで、昨年より1.6%上昇して1平方メートルあたり445,000円でした。